

学校と地域のつながり

学校・地域のイベントや児童・生徒の活躍は地域の誇り

(文責は編集事務局)

地域の“ふれあいの場” 寿楽園納涼祭 野川中も自治会も参加

野川台の夏の風物詩“寿楽園納涼祭”は、今年で13年目を迎え、施設の入居者とその家族、そして地域との年1回のふれあいの場となっております。

夕方、屋外の仮設ステージでは、地域の色々なクラブや団体の演技が披露され、その中でも、この9月に吹奏楽コンクール東関東大会に2年連続出場し、栄えある銀賞に輝いた野川中学校吹奏楽部の皆さんは、来場された方々の気持ちを素早くつかみ、それにふさわしい演奏に心掛けられ、アンコールの声が随所から聞かれるなど会場の盛り上がりにも努めていました。

一方、模擬店コーナーでは、かき氷、飲み物、焼きそば等の出店、特に3年目を迎えた共催者の野川台自治会（櫻井会長）は、役員総出で前日から準備し仕込んだ“特製の焼きそば”400食を早いうちに完売するなど大好評のうちに終了しました。最後に寿楽園の若手による恒例の力強い「よさこいソーラン」で締め、参加者はそれぞれの思いをもって家路についた楽しい夏の夜でした。(事務局)



銀賞に輝いた野川中吹奏楽部



好評な野川台の焼そば！

「さよならプロジェクト」発足2年！ —生徒の感謝の思いと行動—

野川中では、2年前から毎日、5時の最終下校時の10分前に、当番に当たる部長から「今日の練習はこれまで！」の一言で、部員は一斉に下校時のあいさつ（「さよならプロジェクト」）をしに校門に向かう。

この運動は、月曜日から金曜日までの毎日、20余数の文化部、運動部のうち、ひとつの部が順番に月1回のペースで行っている。バドミントン部の部長（部活動部長）は、「先輩から引き継いで2年、初めは不安もありましたが、うまく動いています。単的に言って、自分たちの「感謝」の気持ちを“さよなら”で表したものです。もう少し具体的には、「施設の利用はもとより、いつも教室や体育館での練習日を調整しあい、明日使う選手のために床や窓ガラス等の清掃もし合っている仲間同士や朝と夕方の遅くまで、部活動を支えてくださる先生や職員の方、そして日々お世話になっている家族等へのそれぞれの思いを、お互いに「今日もありがとう」、「助かったよ」、「明日もよろしくね」という感謝の気持ちを込めて校門であいさつを交わし

ているとのこと。（部顧問 長倉、鈴木各先生）



朝のあいさつ運動



さよならプロジェクト(当日担当野球部)

「仲間と笑い、未来へチャレンジ」 40周年記念 西野川小学校

30周年の時に在校生が詰め込んだタイムカプセルが校長室にあります。今年のふれあい西野川の後に封印を解きます。現在22～16歳になっている卒業生たちが、10年前の自分と向き合いどう思うでしょうか。楽しみです。タイムカプセル開封は10月26(土) 16時～16:50分体育館で行います。10年前の小学生の皆さん、どうぞ母校へ登校してください。また11月29日に保護者向けに40周年記念発表会を、12月7日に地域の方に記念式典を行います。



開校40周年のテーマ

「伝承～繋ぐ野川の輝く歴史」 40周年記念 野川中学校

今年度は、野川中の三大祭りの“体育祭”“合唱祭”“芸術祭”を40周年記念祭として行っています。例年以上に力が入った活動になっています。芸術祭では、全校制作のモザイクアートの披露があります。全校生徒の力作をぜひともご覧ください。

来年2月8日に40周年祝賀会を行う予定です。

また、今年度はトイレの改修工事が行われて、明るくきれいなトイレになってきています。来年度は外壁、屋上の防水工事も予定されていて、外観もきれいになっていきます。

伝承、未来へチャレンジと、輝く野川の基幹となる学校を、地域の私たちもサポートしていきます。



生徒会年間・40周年記念テーマ

編集後記

あいさつ運動を始めてから10余年を経て、この3月に「あいさつ運動と地域社会」を発行することができました。関係者のご協力に感謝申し上げます。過日の研修会で田園調布学園大学元教授小林俊子先生が「私が地域を創り、地域が私を創る」そのためにはお互いに声を掛け合う関係にあることが大事と話されました。(佐藤、原田、前之園、辻本)

野川台自治会

あいさつ運動の輪

発行：野川台自治会
発行者：野川台自治会長
川崎市宮前区
TEL.
協力：西野川小・野川中PTA、野川小、南野川小、
野川町内会、西園地自治会、野川南台自治会、
おやじの会、すずの会、一葉会、青少年指導員、
地区民児協、地区社協、野川こ文ほか
編集：福祉の風土づくりを進める会事務局
代表



家庭・学校・地域のさらなる連携をめざして



「野川のまちに育てられて」

西野川小学校 校長 小野瀬 三智子

夏休みを終えて、学校に子どもたちの声が戻ってきました。子どもたちの声が響いてこそ、学校は息づくものだと感じます。

本校は昭和55年に開校し、今年で創立40年になり「仲間と笑い 未来へチャレンジ」をスローガンに、12月7日(土)には、記念行事を予定しています。

これまで多くの方々に見守られ、支えられて、お陰様で40年という節目を迎えることができ、本当にありがとうございます。

7月の学校教育推進会議で、児童から「もっと地域のひとと仲良くなりたい」という意見が出ました。「あいさつはゴールではなく、あいさつをきっかけに顔見知りや知り合いを増やし、声を掛け合う人や話ができる人を増やすことが大切なのでは」というお話が地域の方からもありました。

あいさつをきっかけにして、こどもも大人も声を掛け合う野川のまちに、こどもも学校も育ててもらっていることを感じます。



西野川小学校の朝のあいさつ運動

地域に支えられ40年

野川中学校 校長 森島 烈

野川中学校は今年度創立40周年を迎えました。卒業生は1万800人を超え、「伝承、つなぐ野川の輝く歴史」のテーマのもと、今年度、日々の活動を行っております。この、40年の長い歴史を振り返ると、様々なところで地域の方々に支えられていることが、実感されます。

昨年度は中庭にあった大きなクスノキがくさって危

険な状態になっていたところ、元PTA会長が重機を出してくださり撤去してくださいました。毎年行っている地域清掃でも、多くの方々にご協力をいただいております。また、7月に民生委員の方々にお集まりいただき、会議を開催させていただきました。

10年以上続けていただいているあいさつ運動は、まさに地域の方々に支えられている最たるもので、「つなぐ野川の輝く歴史」の一部として、これからも地域の皆さまと共に、子どもたちを見守り続けて行きたいと思っています。



若さ溢れる“体育祭”

私たちにあって、地域とは何だろう！

田園調布学園大学 元教授 小林 俊子

今日の社会は、コンビニやスマホ等の時代を迎え、人と人とのつながりが薄れがちになってきております。

昔は、例えば田植えの際、田に水を協力し合って引いてきていたケースのように、地域の共通意識をもった顔のわかる空間がありました。そうした空間を少しでも現代風に取り戻すにはどうしたらよいかが、今日の課題でもあるといえるかと思えます。私たちの日常生活はもとより、世代交流や町内会・自治会の活動にも通じることでありますが、暮らし易い、つながりのある地域を作っていくには、みんなが一寸した気遣い、お互いさまの心づかいをもって家族の力、隣近所の力、地域の力を信じ協力し合うことにあるように思えます。「私」が「地域」を創り、「地域」が「私」を創ります。そのためにも、まず日頃からお互いに、顔見知りになり、声をかけあう関係にあることが大切と思えます。その意味でも「向こう三軒両隣」の先の「向こう五軒とその隣…」等にさらに広げることが、大切と思えます。(令和元年6月、宮前第一地区社協と地域包括支援センター共催の研修会での講演要旨)



満開の第一公園の藤棚



大規模地震「避難所開設訓練」の実施！

野川地区の三つの小学校で同時開催

9月8日、三つの小学校で避難所開設訓練が行われました。西野川小学校では、二つの避難所運営会議の共催の基に、野川台自治会、西団地自治会、野川町内会の協力を得て実施されました。

西野川小学校避難所運営会議の梅田委員長(野川台)のあいさつの後、体育館に集まった参加者250余名全員で訓練に先立ち放映されたビデオから東日本大震災の被災の状況等を学び合う。その後、五つの班(総務班、情報広報班、環境衛生班、救護班、食料物資班)に分かれて、区役所地域振興課職員の指導を得ながら校庭で汗流して開設訓練を通じ「避難所生活のイロハ」を学ぶ。訓練を終えて、この種の積み重ねの大切さと日頃からの隣近所とのつながりの重要性をみんなで共有し合った一日になりました (事務局)



全員でビデオで学ぶ



トイレのテントの組立て

花と緑のコンクール入賞！

川崎市主催の第15回「わがまち花と緑のコンクール」におきまして、野川台バス停に隣接している野川第一公園は、団体部門新人賞に浴しました。花壇のデザインの大胆さや丁寧な管理などの面で評価されたことが伺われます。野川第一公園管理運営協議会の皆様、ありがとうございます。



第一公園の花壇

恒例の夏休みのラジオ体操

夏休みの朝の6時半間際に、子どもたちや地域の人々が、どこからともなく野川第4公園に150名近く集まって来ます。そして間もなく自治会の役員の号令でラジオ体操を開始。軽快な音楽に合わせて体を動かすことは、眠気を飛ばし、一日の生活のリズムのはじまりになっていることが帰路の様子からも伺えました。

(実施は7月と8月の下旬併せて10日間)



ラジオに合せて！

社会を明るくする運動で表彰

西野川小学校、南野川小学校、野川中学校

「社会を明るくする運動」宮前地区推進委員会は毎年、よい行いをした青少年を表彰しています。

今年、野川地域は四つの団体が受賞しました。ひとつは、西野川小学校の児童による地域美化清掃、次に南野川小学校のスクールバンドによるふれあいコンサート等の開催、さらには、野川中学校の美術部の総合防災訓練における「消火ホースキット」模範演技、そして同校吹奏楽部の地域演奏活動です。おめでとうございます。これからもよろしくお願ひします。



受賞者の笑顔！

あいさつで始まる学校

野川小学校 校長 伊藤 肇

今年度の4月に中原小から転任してきて、まず感じたことが野川小の子は、あいさつのよくできる子どもたちだということでした。野川小の子どもたちにあいさつが定着しているのは、学校や家庭のみならず野川の地域全体であいさつ運動に取り組んでいることが大変大きいと思います。

野川小では、毎朝クラスごとに当番を決めて正門前であいさつ運動をしています。時には民生委員さん、主任児童委員さん、町内会のみなさんとともに取り組んでいます。子どもたちは地域の方々からも温かく見守られながら、安心して育っているのです。そして、そのよき伝統がこれからも脈々と受け継がれ、地域とともに育つ子どもたちであり続けることが、地域愛につながっていくのだと思います。今朝も元気な子供たちのあいさつが、正門に響いています。この響きが人々に元気を与え、すてきな一日の始まりになっています。



野川小学校の朝のあいさつ運動



野川を笑顔あふれる地域に！

—野川地域の三つの小学校の児童の声—

西野川小学校

✳ あいさつ運動で、地域の方たちはいつも笑顔であいさつをしてくれます。ほくも、計画運営委員として、あいさつをする機会がありますが、思いの強さが違うような気がします。「おはようございます。」の一言で相手に気持ちが伝わるような本当のあいさつができるようになりたいです。

(5年 八戸 優斗)



野川小学校

✳ 私は、ふれあい委員会に入る前は、意味もなかったあいさつをしていることが多かったような気がします。でも委員会に入って活動したり、委員長さんの頑張っている姿を見たりして、あいさつをすることで豊かな素敵な学校になるのだと実感しました。私は、これからも野川小があいさつする側もされる側も輝くような素敵な学校にしていきたいです。

(6年 協園 凜)



南野川小学校

✳ あいさつ運動は毎朝、八時から八時十五分まで正門と南門でやっています。私たちがあいさつをすると皆が「おはようございます。」と返してくれます。あいさつをすると気持ちいいです。週に一度の担当の日に正門か南門に立ちあいさつ運動をしてほしいです。あいさつをされたら返し、自分から積極的にあいさができる南野川小学校にしたいです。

(6年 井口 春花)



緊張した様子で先生のお話しにうなづき、そして作業を開始。最初にボウルにバターと砂糖、さらに卵と小麦粉を入れ、分離しないように細心の注意を払ってかきまぜる作業に集中、上の子は下の子の面倒をみつ、お互いに交代し合いながら、そしてかき混ぜたものを型に入れ、ようやく作業終了。その後、子どもたちは「ブルーベリーマフィン」のお菓子が焼きあがるまで、フルーツ寒天をいただく。その時には、緊張感もとれ、楽しいから「またみんなでやりたい」といつもの笑顔に戻っていました。

地域のお母さん方も、子どもたちと一緒に、時にはサポートしながら、新鮮で心温まる一時を過ごせたことが伺えました。(事務局)



“またみんなでやりたい”

「継続は力」

南野川小学校 校長 野村 智

登校時の「あいさつ運動」の際、坂を上り正門が近づくにつれ、その子の気持ちが揺れ動く光景に出会うことができました。担任に確認すると、人との関わりが苦手なところがあるとのことでした。

継続することの力を感じたのは、声をかけ続けたことで、声を出しての返事はなくとも、頭を下げ、私の顔を見てから昇降口に向かうという変化が見られたことです。まさに「継続は力」だと考えた瞬間です。



南野川小学校の朝のあいさつ運動

いこいの家で楽しい“おかしづくり”

野川地域の子どもも大人も一緒に！

“めっちゃ楽しい”と話す子、手が“痛い、痛い”と腕をさする子。それは、8月末、こども文化センターと野川いこいの家と一緒に開催した世代交流事業「おかしづくり」の一コマです。当日1歳から小学5年生まで17名のこどもと地域の方15名が参加。子どもたちは、どんなお菓子ができるのか、わくわくしながらも、



今年7月に野川3012で発掘された縄文式土器
(吾妻考古学研究所発掘)